



沖縄「慰靈の日」の集会に参加した人たち=23日、ニューヨーク（島田峰隆撮影）

田峰隆】沖縄「慰靈の日」の23日、米ニューヨーク市内では市民らが沖縄戦の戦没者を追悼する集会を開きました。敵基地攻撃能力の保有など岸田政権が米国言いなりの大軍拡を進めるなか、参加者は沖縄や東アジアの国々を再び戦場にしてはならないと訴えました。

「米軍基地撤去を」「NY連帯」

沖縄「慰靈の日」

とも犠牲になりました」と指摘。「いま沖縄には多数の米兵が駐留しています。太平洋

地域で軍事的緊張が高まれば、沖縄が最初の標的の一つになってしまいます」と懸念を語りました。

集会は平和団体「ス

タン・ワイズ・オキナワNY」が呼び掛けました。参加者は「命の宝（命こころ）」「辺野古の米軍基地建設を止めよう」などと書いた横断幕を掲げてアピールしました。

父親が米海兵隊員として沖縄戦に参加したアーヴィング・トさん（60）は「沖縄（80）は、米政府が沖縄に重点的に米軍を駐留させていると批判。

トサン（60）は「沖縄はいつも私の心の中にあります」と発言。父親が沖縄から持ち帰った日の丸に名前が書かれていた日本兵の遺族

たちの政治的責務です」と強調しました。

退役軍人平和会（ユ

トヨーク支部代表のス

ザン・シュナルさん

地撤去を求める沖縄の人々と連帯します」と述べました。